

令和2年度 学校関係者評価書 (川南町立国光原中学校)

項目	評価指標 及び 具体的目標	自己評価		結果の考察・分析及び改善策等	協議員評価	学校運営協議会委員の意見
		項目	総合			
I 町民総ぐるみによる教育の推進	学校、家庭、地域等が一体となって取り組む教育を推進する。 ・ 授業や学校行事等における地域人財(材)との積極的な連携 ・ 学校間連携の推進 関係機関等との連携 ・ 学校運営協議会の助言を生かした教育の充実	3.9	3.8	○1年総合(地域学習)や2年総合(職場体験学習)、3年総合(地域参画型面接)等で地域人財を積極的に活用した学習ができた。 ○3校合同授業研究会やあいさつ運動、クリーン作戦で小学校と連携した取組を行った。県立農業高等学校の協力を得て、農業体験やさつまいもの販売を行い、地域の方々と交流することができた。軽トラ市では、学校地域協働活動推進委員の助言を得て、生徒が早朝ボランティアに参加した。 ●学校運営協議会委員には様々な形で学校に関わっていただいているが、学校、家庭、地域が一体となって取り組む教育の推進にあたり、学校運営協議会の役割を明確にする必要がある。	3.8	○あいさつ運動、クリーン作戦、授業研究等、連携のとれた活動が行えている。特に早朝ボランティアや農大協力のもと、農業体験やサツマイモ販売で地域との交流を増やし家庭、学校、地域が一体となり取り組まれていた。 ○農業体験で、サツマイモの植え付けから、収穫、販売までの取組は、体験学習としては最良のカリキュラムである。 ○学校と地域が一体となって、学校の教育目標を具現化(子どもの育成)しようとする気運が高まってきた気がする。
	家庭や地域の教育力の向上に努める。 ・ PTA活動の充実 ・ 魅力ある家庭教育学級の実施 ・ 参観日、学級懇談の充実	3.6	3.8	○新型コロナウイルス感染症の関係でPTA活動の自粛が続いたが、保護者の協力を得て、体育大会・文化祭を半日開催を思わせない充実したものとすることができた。 ○参観日を4回計画して、2回実施できた。学級懇談や説明会を通して、情報の共有ができた。 ●家庭教育学級で外部講師を招いた研修会等を企画したが中止となり、ほとんど活動ができなかった。	3	*今年度はコロナ禍において教育向上における家庭教育学級等の活動が開催できない状況であり、やむを得ないと思う。 *新型コロナウイルスの影響で、家庭教育学級が実施できなかったことが残念である。 ○今年度はコロナの関係で思うようにいかなかったと思う。こんな時ほど、学校の情報を発信し、学校の課題を共有することが大切だと思う。
	開かれた学校づくりを推進する。 ・ 積極的な情報(学年学校便り、ホームページ等)の発信 ・ オープンスクールの実施 ・ 学校図書館の地域開放、受入体制の充実	3.9	3.8	○学級通信やホームページの定期的な発行・更新を行うことができた。 ●オープンスクールは、新型コロナウイルス感染症対策のため、中止した。 ○図書館事務との連携により、読書推進校の選ぶベストブックが紹介されるなど掲示物が充実し、読書活動の推進が図られた。	3.3	●コロナ禍において開かれた学校づくりとしてどのように対応していかなければならないかを考えて行かなければならない。 ○ホームページの更新がすばらしい。その都度の更新で学校の様子を発信し、新型コロナウイルスの影響での学校でのあり方が、手に取るようにわかる。担当者の努力に敬服。 ○よく学校の様子がわかった。今後は、学校、地域、家庭がどう協働するかを考えることだと思う。
II 生きる基盤を育む教育の推進	確かな学力を育む教育を推進する。 ・ 主体的・対話的で深い学びを実現させる授業づくり ・ 学力テスト等を利用した学力向上のための取組の充実 ・ 宮崎大学との連携	3.7	3.8	○主題研究では、発問に着目した研究を行い、授業改善に努めた。 ○宮崎大学との連携授業を年2回実施するなど、授業力向上に向けて取り組んだ。 ●各教科が学力向上に向けた粘り強い取組を行っているが、継続した取組やさらなる工夫が必要である。	3.3	○宮崎大学との連携授業を実施するなど、とても素晴らしい取組である。 *全教師の研究授業の実施はできたのか、その成果を知りたい。 *宮崎大学との連携授業の成果は。できたら、研究紀要の発行を望む。 ○先生方はよく指導法の研究をされている。これからは、生徒の生活習慣を確立させ、学習意欲を家庭と一緒に高めさせることだと思う。
	豊かな心を育む教育を推進する。 ・ 自己実現を図る生徒指導の充実(いじめ防止基本方針に基づいた取組の充実) ・ 道徳教育の充実	3.8	3.8	○道徳教育の授業を計画的に実施している。学校教育アンケートを毎月実施し、いじめを許さない環境づくりに取り組んでいる。 ○人権擁護委員を講師に招いて人権学習集会を実施し、人権やいじめ・差別防止について学んだ。 ●いじめ・不登校対策委員会を毎月実施し、共通理解・共通実践を行っているが、不登校傾向生徒の解消には至っていない。 ○清掃前の整列をやめ、清掃場所に着いたらそのまま清掃を始めるように手順を変更した。活動時間を確保し、無言清掃にもしっかりと取り組んでいる。	3.5	●不登校傾向生徒の解消ができるようにあると良いが、なかなか学校だけでは難しいため、心理カウンセラーや家庭、地域が協力できる体制を求める。 ○いじめ・差別の防止の人権教育への取組は評価できる。 ○清掃活動の手順変更は、能率的な作業の推進につながる。 ○生徒会の活動がよく活かされていると思う。福祉体験学習等の実践活動をすることによって、より思いやりの心が身に付くようになると思う。
	健やかな体を育む教育を推進する。 ・ 保健指導の充実と体力向上プランの推進 ・ 弁当の日、食育の推進 ・ 部活動の活性化	3.8	3.8	○新型コロナウイルス感染症対策として、登校時の検温や消毒、マスクの着用、手洗い・うがいの励行、教室の換気、手指の消毒、机椅子の消毒等を継続して行った。 ●メディアコントロール週間を設定し、メディアに向かう時間を制限することで健やかな体づくりにつなげようとして取り組んでいるが、各家庭のルールづくりに課題があり、さらなる改善を促すなど継続した取組が必要である。 ○給食感謝集会で栄養士による講演を行い、適切な量をバランスよく食べるよう促し、栄養教諭のアドバイスを参考に生徒が計画的かつ主体的に弁当作りに取り組めるようにした。 ○部活動指導に全職員で取り組んだ。	3.5	○体を作る源である食について講演を行ったり、弁当作りを取り組ませることはとても良いと思う。 ○メディアコントロール週間の設定という発想が素晴らしい。 ○部活動指導に全職員で取り組む意気込みは立派である。 ○体力づくりはよくされていると思う。今後は気力づくり(心の健康)が必要だと思う。
	共生社会を目指す特別支援教育を推進する。 ・ 個に応じた特別支援教育の充実	3.8	3.8	○夏季研修で子どもの人権や特性について研修を行い、個に応じた指導の在り方を学ぶことができた。	3.3	○人権についての研修や個人に対応した指導を学んでいき、それを子ども達に還元していただける事はとても有難い。 *交流学习での成果を知りたい。 ●共生社会の必要性については、理論的にはわかっているが、実生活の中で実践されていない。交流学习等の実体験を通して学ばせる必要がある。
	人権が尊重される社会を目指す教育を推進する。 ・ 思いやりのある言葉遣いの励行と人権教育の推進	3.8	3.8	○毎週水曜日の職朝で生徒理解の場を設け、各学級の生徒の状況等について共通理解を図り、日々の指導に生かしている。 ○夏季研修で子どもの人権や特性について研修を行い、人権感覚を磨くことができた。	3.8	○定期的に日程を決めて評価していく事は素晴らしい取組である。 ○水曜日の生徒理解のための話し合いは成果が上がっていると確信する。 ●「人権」とは何かについて、具体的な事を通して学ばせる、本当に身に付く学習をさせる必要がある。

III 自立した社会人、職業人を育む教育の推進	1	ふるさと川南に学び、誇りや愛着を育む教育を推進する。 ・ 川南の宝を活用したふるさと学習の推進 ・ 川南町歌、川南音頭等による町民意識の醸成	3.8	○1年総合「地域学習」では、地域人財を活用し、ふるさと川南についてしっかり学ぶことができた。 ○体育大会では、川南音頭を保存会と連携して行った。今年度より法被を作成し、背中に「川南クオリティー」を背負わせることで町民意識の醸成を図った。	3.8	○川南町について学び、郷土における川南音頭や法被作成など素晴らしい取組がみられた。 ○学校行事での町民歌の斉唱は、町民意識を高揚するのに効果的な取組である。 ○国中は、総合の時間を通して、川南に誇りや愛着を育む教育が、一年生から系統的にされており、素晴らしいと思う。
	2	地域の課題解決に参画する意識や態度を育む教育を推進する。 ・ ボランティア活動等地域に貢献する活動への参画 ・ 小中合同活動の推進 ・ 生徒の主体的な活動を促す生徒会活動の充実	3.9	○花の栽培ボランティアに多くの生徒が参加し、種まきや鉢上げ、水やり、草抜き等の活動を行った。 ○小中合同で地域の清掃活動(グリーン作戦)を行い、地域の美化に貢献した。 ○生徒会が国中キャラクターを募集し、「コッコウ」を選出するなど生徒による主体的な取組が見られた。	3.8	○ボランティアに多くの生徒を参加させ、地域との交流を図っている取組はとても良い事であり、その成果として生徒たちが積極的にコッコウのキャラクターを考えた事は素晴らしいと思う。 ○生徒会が中心となり、ボランティア活動の範囲が広がることを期待する。 ○川南の産業のひとつである農業について、農業大学の協力を得て実習がされており、農業の大変さ、大切さを学んでおり、他校にはない学習がされている。
	3	キャリア教育を推進する。 ・ 社会的・職業的自立に向けたキャリア教育の推進計画作成と実践 ・ 職場体験学習、奉仕体験活動の充実 ・ 地域人財(材)によるドリカム(職業)講話の実施	3.8	○1年生では「地域を知る」学習を行い、2年生では「職場体験を中心として職業について学ぶ」学習、3年生で「自分の夢を実現する」ための学習を行った。 ●新型コロナウイルス感染症の関係で、ドリカム講話(年2回)を実施することができなかった。	3.3	* 毎年行うドリカム講話ができなかった事は残念であった。 * 新型コロナウイルスの影響でドリカム講話が実施できなかったことは、残念である。 ○多くの地域の方の協力を得て働く事の意義を学び、さらに職場体験を通して実体験している。
IV 魅力ある教育を支える体制や環境の整備、充実	1	教職員の資質向上に努める。 ・ OJTの積極的な推進 ・ 指導力向上のための研修の充実 ・ コンプライアンスチェック、意識の高揚	3.3	○通知文、新聞記事を活用して、コンプライアンス意識の向上に取り組んだ。職員研修では、具体的な事例をもとにした研修を企画し、共通理解を図った。 ○宮崎大学との連携授業を年2回実施するなど、授業力向上に向けて授業改善に取り組んだ。 ●新型コロナウイルス感染症への対応等に追われ、校外研修も激減し、研修の機会が減った。	3.5	○宮崎大学との連携授業において先生方にもさらなる刺激となり良い成果が生まれていくと思う。これからも続けていただけると有難い。 ○コンプライアンス意識の向上に新聞記事の活用や、具体的な事例を提示することは効果的な指導法である。 ●先生方は生徒の「人の生き方」を指導するプロの集団であり、知・徳・体のバランスのとれた指導法を研修してほしい。
	2	学校における安全、安心の確保に努める。 ・ 自ら命を守る安全教育の推進(ヘルメット、たすき) ・ 安全に配慮した施設・設備の管理 ・ 危機管理マニュアルの周知と緊急時の対応整備	3.7	○交通安全教室を年2回実施し、1回は高鍋警察署より講師を招いて、自転車による事故の防止教室を行った。 ○校内の安全点検を定期的に行い、川南町技術員の方と連携して修理等を行った。 ●スポーツ時のけがへの対応について、報告・連絡・相談を迅速に行うよう再確認する場面があった。	3.6	○校内の安全点検で見つかった修理箇所を、町技術員との連携をもって修理したことは、教頭の仕事の軽減につながる。 ●安全教育は集団で学んだことが危機に遭遇した場合自己決定力(判断力)につながるよう指導してほしい。
	3	学校の教育環境の整備、充実に努める。 ・ ICT機器の積極的な活用と研修の充実 ・ 施設設備等必要事項の町教育課への確実な報告・連絡・相談	3.7	○臨時休業期間を活用して、施設設備の点検や整備等を行うことができた。 ○ICT機器利用に関する研修を行い、困ったときの相談体制もできており、積極的に活用できた。 ●次年度より生徒1人1人にタブレット端末が導入されるので、職員研修でも取り組む計画である。ICT機器の利用について、これまで以上に研修の機会を設定し、共通理解・共通実践を進めていく必要がある。	3.4	○ICTの利用によりこれからの社会情勢に対応できる教育を子ども達に進めていけると有難い。 * これからのICT機器利用に関しての教員の研修に期待する。 ●教育環境の整備は教育機器だけではない。生徒が信頼し、安心して相談のできる人材をそろえる、人的環境の整備も必要である。
V く 挑 生 涯 の 推 進 り 戦 涯 を 通 じ て 学 ぶ 進 り 戦 涯 を 通 じ て 学 ぶ	1	自ら学び、地域に貢献する生涯学習の基礎づくり ・ コミュニティスクールとしての在り方を追求し、家庭・地域と一体となった、将来の川南を担う人づくりを推進する。	3.7	○1年「地域学習」や2年「職場体験学習」、3年「地域参画型面接」等の地域人財を活用した学習で、自ら学び、地域に貢献する生き方の基礎を培うことができた。 ○人財の確保や事業所開拓等の際に、学校地域協働活動推進委員を頼るところが大きく、大変助けていただいた。	3.7	○地域の人材を活用する取組を連携している学校経営は評価できる。 ○未来社会をイメージし、その時代を生きるには今何を学ぶべきかを知ることは非常に大切な事である。